

—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル：リバーマン前外相に対する無罪判決

11月6日、エルサレムの裁判所は、詐欺・信託義務違反罪で起訴されていたアブグドール・リバーマン前外相（イスラエルベイテヌ党首）に、無罪を言い渡した。判決では、リバーマン前外相（当時）が、リトアニア大使に起用されたベン・アリエフとの関係を外務省の人事委員会に通報しなかったのは法的には不適切であるが罪にはならないとした。

検察が上告をしない場合、リバーマンは無罪判決を受けたことで外相ポストへの復帰が可能になる。判決直後にリバーマンと電話で話をしたネタニヤフ首相は、無罪判決を祝福し、政府への復帰を歓迎した。右派「ユダヤの家」の党首であるベネット経済相は無罪判決を歓迎した。左派労働党のヤチモビッチ党首は、ネタニヤフ首相にリバーマンを外相ポストに戻さないように要請した。ネタニヤフ首相は、10日の閣議でリバーマンの外相就任について了承を取り付け、11日以降に国会承認を求めつもりだと報道されている。

2012年12月14日、リバーマン外相は起訴されることが決まったことを受けて外相ポストを辞任すると発表した。同18日、リバーマン外相の辞任が発効し、ネタニヤフ首相が外相を兼任した。リバーマンの裁判は、2013年2月17日から開始されていた。

リバーマンは、イスラエルベイテヌの党首である。同党は、2013年1月の選挙にリクードと統一名簿で臨み31議席を獲得して第一党になった。裁判中のリバーマン党首は、組閣協議には参加したが、入閣はせず、ネタニヤフ首相は外相ポストを兼任する形で新内閣を組織した。今後両党が統一名簿を解消すると、リクードは第一政党だが20議席に、イスラエルベイテヌは11議席で、宗教政党シャスと同議席数の第5党になる。

評価

有力政治家であるリバーマンが入閣し政治活動を活発化させると、ネタニヤフ首相との確執、連立与党内での不協和音が大きくなる可能性がある。リバーマンは、世俗派の極右政治家で、パレスチナとの和平には極めて懐疑的である。2010年9月に国連総会で外相として演説した際には、中東和平での2国家構想はフィクションだと述べ、演説後に個人的発言だとしたことがある。

（中島主席研究員）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799